

地域コミュニティ部門賞

北海道 水土里ネット東和

小学生が農業を体験する「田んぼの学校」が 次世代の担い手育成に大きく貢献

位置図



子ども時代の農業体験から 若き新規就労者も誕生

水土里ネット東和の管理区域は、北海道旭川市の東部に位置し、大雪山国立公園のふもとに広がる稲作地帯です。しかし、近年は宅地開発が進んで非農家が増えたため、一般住民にも農業や農業用水施設の重要性を理解してもらう必要が生じていました。

そこで、地域住民に水土里ネットの役割を広く伝え



田んぼの学校による稲刈り体験



高齢者向けの施設見学

した「田んぼの学校」です。

この活動は小学5年生を対象に年3回行われ、児童たちは田植えや稲刈り、脱穀などを体験します。また、水の重要性や農業用水施設の役割を理解してもらうため、ダムや頭首工などの見学も実施しています。

農業体験では、手作業の田植えや稲刈りに加え、足踏み脱穀機や唐箕^{とうみ}を調達し、古い時代の農作業も体験。コンバインを使った稲刈りなど現代の農作業も両方を体験することで、子どもたちが農業の歴史を肌で感じられるよう工夫しています。

その結果、終了後のアンケートでは、参加した児童のほぼ全員が「参加してよかった」と回答。「将来農

業をやってみたいか」の問いには、約6割が「やってみたい」と回答しました。

実際に、「田んぼの学校」に参加した子どもが成長し、地元で新規就農した事例も出ています。本人も「小学生の頃の稲刈り体験で農業の楽しさを知った」と語っていて、15年以上続けてきたこの活動が、次世代の担い手育成に確実につながっていると実感しています。

高齢者向けの施設見学会や 防災・防火活動での連携も

さらに幅広い世代に農業を理解してもらうため、平成28年度からは高齢者を中心とする地域住民を対象に施設見学会も行っています。水土里ネット東和の管内にある東神楽町が運営する生涯学習事業「高齢者大学あやめ学園」の課外活動として、水土里ネット職員が地域内の遊水池を案内しながら、稲作の歴史や用水の仕組みなどを高齢者に学んでもらいました。

地域との連携をより強化するため、平成23年度からは地元の防災・防火活動にも協力。消防署と用水路施設の使用協定を結び、水路の水が訓練の放水体験や実際の消火活動に利用されています。

これらの取り組みにより、農業用水施設を管理する土地改良区と地域の人たちのつながりは着実に強まっています。地域住民との交流で得られた情報や意見を参考に、今後の新たな活動へとつなげていきたい考えです。

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネット東和
役員数	17名
職員数	常勤23名
組合員数	1,056名
受益面積	8,971.1ha

*平成29年4月現在